

2016 年広島フィールドワーク実施報告

- 目的 オバマ大統領の広島訪問が実現し、核廃絶への機運が高まる中、被爆 71 年となる広島を訪れ、広島女学院主催の Peace Forum に参加し、核兵器廃絶について、ハワイ、沖縄、広島から集った高校生たちと共に考え、友好の輪を広げる研修にする。また、先発隊はかつて日本軍の毒ガス製造の場であった大久野島に、後発隊はユダヤ人を中心とした大量虐殺「ホロコースト」に関して展示されているホロコースト記念館を訪れ、非人道的な歴史を学び、平和実現の為に自分たちができる事を考える研修にする。そして最終的には反核・反戦の強い精神を持ち、その精神を周囲に広げていくためのフィールドワークとする。

- 期間 先発隊：2016 年 8 月 5 日(金)～8 月 7 日(日)
後発隊：2016 年 8 月 6 日(土)～8 月 8 日(月)

- 参加者 先発隊：高校 1 年生 5 名、高校 2 年生 2 名、高校 3 年生 3 名 計 10 名
後発隊：高校 1 年生 7 名、高校 2 年生 4 名、高校 3 年生 3 名 計 14 名

■ 事前学習

- 共通**
- ・ DVD「ヒロシマナガサキ」を視聴。
 - ・ 全校生徒での千羽鶴作成・核廃絶の署名。
 - ・ 関西創価中学生を対象とした学園内での署名活動。
 - ・ 河内磐船駅付近やイズミヤ交野店前での署名活動。
 - ・ NPT について調査し、問題点とその解決策に関するプレゼンを作成。
 - ・ 広島の実爆で被爆したアメリカ人捕虜に関する DVD を鑑賞。

先発隊 ・ 大久野島の歴史などについての資料学習

後発隊 ・ ホロコーストの歴史学習。
・ アンネ・フランクの一生についての DVD を視聴。
(ホロコースト記念館より貸出)



千羽鶴の作成



核廃絶の署名活動

■ 行程

8月5日(金)

【先発隊：新大阪駅】 7時40分頃に全員集合し、先発隊リーダー二人による決意発表の後、新幹線に乗車した。9時34分に福山駅に到着。忠海港へ向かうため、バスに乗車。

【先発隊：大久野島】

忠海港から大久野島行きのフェリーに乗って、大久野島に向かった。到着後、島内の毒ガス資料館を見学した。資料館内の会議室で、毒ガス製造に関するDVDを鑑賞し、その後に展示を見学した。

軍馬用の防護服や、当時毒ガスの製造所で働いていた方々の証言集などが展示されており、毒ガスの悲惨さを身をもって体験できるようにとの配慮されていた。

資料館を見学後、行動班に分かれて昼食をとり、島内の遺構を見学した。全員がレンタサイクルを利用し、遺構を順に見学した。遺構の中には、立ち入り禁止のものもあり、毒ガスの悲惨さを現代でも実感できた。

他方、島内には数百匹のウサギがおり、餌を持つと跳ねて近寄ってくる姿はとても愛らしかった。最後に全員で記念写真を撮り、フェリーで島を後にした。

【先発隊：碑めぐり】

忠海港から、バスに乗り広島市内のホテル法華クラブ広島に向かった。

ホテルに荷物を預けた後、平和記念資料館へ向かい、広島女学院の学生と合流。二班に別れ、女学院の学生と平和公園内の碑を巡り、碑についての説明を受けた。

韓国人の原爆犠牲者の碑や、生存者がいた爆心地近くの建物の地下室、爆心地の碑など10前後の碑を見学した。2歳で被爆し、その後平和を訴え続けた佐々木貞子さんの碑では、世界平和への思いを込めて、鐘をならした。また、その碑の横にある折り鶴奉納所で、学園生で作成した千羽鶴を奉納し、30秒間の黙とうを捧げた。碑めぐり終了後、再度資料館に集合し、記念撮影後、解散した。



毒ガス資料館展示室にて



広島女学院の学生による碑めぐり

【先発隊：まちづくり市民交流プラザ】

夕食後、まちづくり市民交流プラザで、Peace Forum、広島平和委員会との交流に備え、プレゼンテーションの練習を行った。また、第1日目を振り返りディスカッションを行った。

その後ホテルに戻り就寝した。

○生徒の感想

・大久野島では、ウサギがたくさんおり、本当に戦時中に毒ガスを作っていた島なのかと驚いた。しかし、当時の従業員の方、そのご家族の思いや辛さが見学していた時に身にしみてわかり、深い悲しみ、憤りを感じた。戦争とは誰にも幸福を生まず、本当に無意味なものだと改めてよく感じた。碑めぐりでは、広島女学院の方のわかりやすい説明のおかげで平和への思いをさらに強めることができた。広島の人々の心から平和を求めている様子に感動した。オバマ大統領が今年広島訪問をしたように、各国の首相などにももっと広島を訪問してほしいと思った。

・大久野島では、毒ガス工場があった跡が残されているが、戦争を体験した方や被害に遭われた方の声が少なくなっている今、実際使われていた建物などを未来に残していくことが本当に大切なことなのだと感じた。目で見て、学べることはたくさんある。直接感じる恐怖感は、同時に私の心で戦

争は絶対にいけないという正義感に変わっていった。直接学ぶことの大切さを改めて実感した。碑巡りでは、今まで知らなかった 碑の意味などを学ぶことができ、大変良い経験となった。また、 朝鮮の方の碑も建てられていて、日本人以外の被爆者の方に思いをはせることも、忘れてはならないことだと思った。

8月6日(土)

【先発隊：広島平和祈念式典】

6時30分から広島平和記念公園に入り8時から広島平和祈念式典に参加した。原爆が落とされた8時15分に黙とうを捧げ、その後内閣総理大臣の話や、子ども代表の誓いを聴いた。式典の最後は参加者全員でひろしま平和の歌を歌った。

【先発隊：広島平和祈念資料館】

式典終了後、広島平和祈念資料館に行った。資料館には原爆が落とされた時の写真や被爆者の衣服や持ち物、原爆の熱で溶けて変形した瓦などが展示されていた。また、今年の5月に広島を訪問したオバマ大統領の折り鶴も展示されていた。資料館には、子どもや外国人もたくさん訪れていた。見学終了後、グループに分かれて外国人にインタビューをした。様々な国にインタビューでき、核兵器廃絶や、オバマ大統領の広島訪問について質問をした。



広島平和記念式典



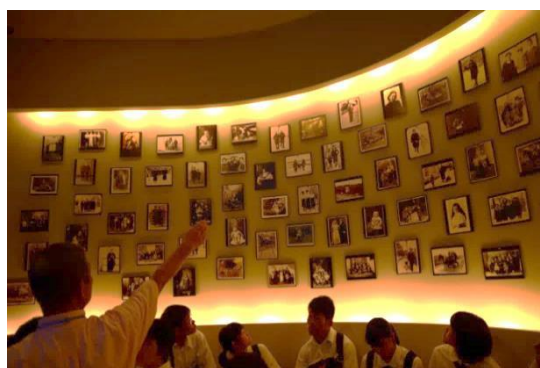
原爆慰霊碑の前で黙祷

【後発隊：新大阪駅】

8時10分に新大阪駅に集合し、出発式を行った。その後、新幹線に乗り、福山駅に向かった。福山駅からはタクシーに乗り、ホロコースト記念館に向かった。

【後発隊：ホロコースト記念館】

ホロコースト記念館は、同館長がアンネの父オットー・フランクさんに出会ったことがきっかけとなって作られた。記念館では、なぜホロコーストが起こったのかを学び、平和のために私たちには何ができるのかを考えた。その後、タクシーに乗って福山駅まで戻り、再度新幹線に乗り、車内で昼食をとりながら広島駅へ向かった。



ホロコースト記念館にて

【Peace Forum 1日目】

後発隊は、14時に広島駅に到着し、路面電車でホテル法華クラブまで移動。荷物を預けて広島女学院へ出発。

15時に、広島女学院にて、先発隊10名と後発隊14名が合流し、Peace Forumに参加した。関西創価、広島女学院、盈進学園、武田高校、沖縄尚学高校の生徒それぞれ2、3名ずつのグループを作り、中東の先生方を交え、数種類のゲームで交流した後、自己紹介や学校のこと、それぞれの夢について英語でディスカッションを行った。その後、各学校の代表によるプレゼンテーションがあり、関西創価学園からは、ラーニングクラスター（LC）の2人が「核廃絶に向けてどのように核の歴史を学ぶべきか」について発表した。



中東の先生方を交えての交流



LCメンバーによるプレゼン

【広島平和会館】

広島駅で各自夕食をとった後、19時から広島平和委員会の方々と交流会を行った。その後、NPTについてのプレゼンを先発隊と後発隊の日本語グループが行い、核廃絶への思いこめて発表することができた。平和委員会の方を交えて平和についてディスカッションを行った後、広島フィールドワークのメンバー全員で学園愛唱歌『負けじ魂ここにあり』を歌った。交流後は館内の展示を見学し、その後ホテルへ向かい就寝した。



先発隊・後発隊代表が活動報告・決意発表



『負けじ魂ここにあり』の合唱

○生徒の感想

- 広島平和委員会の方々に真剣な発表をしました。この青年たちに任せたら大丈夫だとの思いになっていただくために皆で必死に試行錯誤を重ね、練習してきました。真剣にプレゼンテーションをするメンバーを見て感動すると同時に、自分がこれからも核なき世界へ、また戦争なき世界へと導いていくんだとの決意を新たにすることができました。お世話になった方々、本当にありがとうございました。

- ホロコースト記念館では、今まであまり学ぶことのなかったアウシュビッツでの生活や、アンネの部屋の模型を見ることができ、とても良い体験ができました。私たちと同年代の子が何十万人も殺されたと聞いて、私たちの使命はこれからの時代にこのようなことが二度と起こらないようにすることだと改めて感じました。

8月7日（日）

【Peace Forum 2日目】

各行動班ごとに広島女学院へと出発。Peace Forum 2日目は、まず武田高校が NPT の背景や現状について携帯を例にわかりやすく劇で説明。国連の立場や各国の関係、態度が伝わってくる内容だった。その後、劇と NPT の共通点について他校の生徒と意見交換をした。続いて、各学校のプレゼンテーションとなり、関西創価高校からは、2 班が英語で発表を行った。基調講演では土岐さんと荊尾さんが、学生からの質問に答えるという形で核廃絶を進める上で大切なことや自身の活動などについてお話された。その後、昼食を各自で食べ、沖縄商学高校のエイサーやプナハウスクールの学生による歌の披露があり、皆で楽しく鑑賞した。

午後は、事前に振り分けられたグループごとに、各校が発表した NPT の解決策について討論し、一番効果的な解決策を導き出した。その後、講堂に戻り、各グループの代表がディスカッションの成果を発表した。その後、講師からの講評があり、プナハウスクールのピーターソン先生の話で Peace Forum が締めくくられた。

【被爆体験朗読会】

Peace Forum 終了後、被爆体験の朗読ボランティアをされている 3 人の方を招いての被爆体験朗読会に参加した。ビデオを鑑賞し、5 つの体験記や詩の朗読を聴いた。1 つ 1 つの朗読のあと、作者について、また、原爆投下後の広島の様子などの説明もあった。また、自分たちで原爆詩の朗読も行った。被爆者の方々の筆舌に尽くしがたい苦しみを、少しでも感じることでできた貴重な経験となった。



被爆体験朗読会



一言一言をかみしめ朗読

【先発隊：フィールドワーク終了】

先発隊は、会館を後にし、徒歩で広島駅に向かい、18 時 35 分の新幹線で無事帰阪した。20 時 01 分に新大阪駅に到着し、解散式を行った。全員が帰宅途中に、創立者池田先生からのご伝言を頂戴し、感動した気持ちで帰宅した。

創立者をはじめ、様々な方の努力で大成功のフィールドワークとなりました。ご尽力いただいた方々全員に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

【後発隊：まちづくり市民プラザ】

被爆体験朗読会終了後、各行動班で夕食をとり、ホテルに戻った。

その後、まちづくり市民交流プラザでこれまでの振り返りを行い、先生方の話を聞いて、最終日に向け、決意を新たにした。それからホテルに戻り、入浴を済ませ就寝した。

○生徒の感想

- 2日目の Peace Forum で、NPT についていろいろと討議した中で自分が感じたことは、人それぞれに意見や疑問があり自分では考えつかなかったことがありました。その上で対話の大切さ、また周りの人と共有していくことの重要性を改めて感じさせられました。土岐さんやプナホウ高校の引率の先生の講演も、とても心に残っています。
- ピースフォーラムはとても充実したものでした。英語班によるプレゼンテーションをはじめ、ディスカッションなど大成功の一日となりました。特にハワイのプナホウスクールのピーターソン先生は「平和を訴える場で広島人は広島、長崎人は長崎、沖縄人は沖縄の戦争のことしか訴えず、真珠湾のことは全く訴えていない。アメリカが起こしたことだけでなく、日本がもたらした被害についても考えを持つことで、初めて日本人の訴えたいことが相手に伝わる。だから、海外へ行って、海外の視点からも日本を見るべきだ」と言っていて、その言葉が一番印象に残りました。確かに自分たちは今まで広島の前爆による被害についてしか考えていなくて、真珠湾攻撃がもたらしたハワイの人たちの痛みについては考えていなかったと思います。他の人のことを理解することで初めて自分のことも理解してもらえ、ということ学ぶことができました。相手を理解しようとする姿勢が平和をつくる。平和のためには対話が必要不可欠であると思いますが、対話というのはただ相手と仲良くなるというのではなく、まず自分が相手を理解しようとする。それができて、初めて対話というものが成立するのだと思います。
- ピースフォーラムでは本当に色々な事を学べたり平和について深く考えさせられ充実かつ自分の為になったものでした。各校のスキットとプレゼンは完成度が高く平和実現を目指す姿に圧倒されました。関西創価の英語班のプレゼンでは、私たちの平和哲学を他校やプナホウスクールの人達に示せたと思いました。プナホウスクール校長のピーターソン先生が仰っていた広島だけ、長崎だけ、沖縄だけ語れるようでは不十分なこと、是非、海外から広島を見てみるという複眼的な視点を持ってほしい、という言葉聞き、広島・長崎・沖縄を学ぶのは良いと思うが、そこだけに目がいってしまい、他の国などの戦争の出来事などに視野を広げないことは良くないと思いました。この、ピースフォーラムで学んだ事を一喜一憂するのではなく、多くの人にこの体験したことを広めていかねばならないと思いました。



関西創価高校のプレゼンテーション



グループディスカッション



Peace Forum の最後に記念撮影

8月8日（月）

【後発隊：被爆体験講話】

広島女学院の学生と共に、女性の被爆者の方による被爆体験を聴いた。原爆が落ちた場所は広島で2番目くらいの繁華街で、人が多く賑わっていたそうだ。その方は爆心地から4kmのところに住んでいたそうで、当時いた小学校の2階の一部がねじれたり戸棚が倒れたりしたことや、猫の白い毛が黒い雨によって黒くなったことなど、原爆の被害の大きさを学んだ。

【後発隊：碑めぐり】

広島女学院の学生の案内で、原爆犠牲者慰霊碑、レストハウス、原爆の子の像、原爆ドーム前、韓国人原爆犠牲者慰霊碑など11の碑、建物を回った。慰霊碑の前で黙祷をし、被爆者の事を思い浮かべ、胸が締め付けられる思いがした。



被爆体験講話



広島女学院の学生と共に

【後発隊：平和記念公園でインタビュー・リサーチ】

平和記念公園を訪れていた外国の方々に核廃絶についてインタビューを行った。イギリス、スペイン、ベルギーなどをはじめ、多くの外国人の方々が訪れていて、オバマ大統領の広島訪問からの核廃絶へ向けた運動の高まりを感じることができた。またインタビューした方々は核兵器についてとても勉強されていて私たち日本人も核兵器についてもっと学んでいく必要性を感じた。同時に、高い語学力の必要性も感じた。今回インタビューをした方の多くは英語を母国語とする方ではなかったが、英語でコミュニケーションをとる中で、世界共通語としての英語の大切さを実感した。



英語でのインタビューに挑戦

【後発隊：広島平和記念資料館】

碑めぐりの後、広島平和記念資料館の見学をした。資料館には、原爆投下による被害が分かる遺品や写真などが展示されていた。原爆の熱線で皮膚が焼けただれている被爆者の等身大のジオラマ、原爆投下時刻で止まった腕時計、広島に投下された原子爆弾の実物大のレプリカなど広島で起きた悲劇を物語っていた。

【後発隊：小溝理事長による講演】

碑めぐりの後、広島平和文化センターを訪れ、センターの理事長であり、これまで外務省で核廃絶の為に尽力してこられた小溝理事長のお話を伺った。小溝理事長は市民運動と教育の重要性を訴えられた。特に教育に関しては、一人一人が無数の可能性を持っていることを理解し、お互いの差異を乗り越えることが大切だとおっしゃられた。また、私たち青年に期待することとして、核廃絶だけではなく他の問題にも目を向けることや、感謝の気持ちを持って行動することをあげられた。そして将来は学んだことを伝え、行動して欲しいとおっしゃられた。小溝理事長からの多大なる期待に感銘を受け、平和実現への決意を皆で固めた。



オバマ大統領の鶴



小溝理事長による大感動の講演

【後発隊：フィールドワーク終了】

記念資料館を後にし、広島駅に向かい、寮生・下宿生は解散となった。通学生は、17時35分の新幹線に乗り、19時01分に新大阪に到着。解散式をし、帰路に着いた。

○生徒の感想

- 実際に被爆された方から体験を聞くことは、本やインターネットで学習するのとは大きく違うことを実感した。“一度歯車がまわったらもう止められない”という言葉が心にささった。やはり、普通の人たちを巻き込む悲惨な戦争は絶対に起こしてはいけないと決意し直すことができた。これからをつくっていくのは私たち若者だけだと思うから、なにか少しでも行動していきたいと思った
- 3日目は実際に話をきいたり、見たり、体験する中で、改めて戦争は人を不幸にする絶対に繰り返してはいけない絶対悪だと感じました。被爆者の高齢化が進む中、今後、戦争の悲惨さを伝えるのは私たちであると確信しました。何を始めるにも必要なことは学習することです。学習し、学んで知らない人に伝えていく使命が私たちにはあります。この広島フィールドワークで沢山のことを学ぶことができ、人生の糧となる思い出を築くことができました。この経験を通してこれからの学園生活に活かしていけるように頑張っていきます。

■ 広島フィールドワークを終えて

- 今回のフィールドワークは、核兵器廃絶のための学びを深めることができた。多くの生徒が核兵器の廃絶に対して、NPTの問題点が多くあることで、当初は難しい面もあるのではと感じていたが、ホロコースト記念館に行き、多くの無実の子どもが亡くなった事実と直面した時、戦争そのものに怒りを隠せなかった。また、1日目と2日目には英語の必要性を強く感じた。多くの生徒が初めて英語でリサーチをしたので上手いかず、悔しさを感じたし、またもっと上手くなって、喋れる姿を見せつけてやりたいという生徒もいた。原爆の体験や、朗読会では誰

も声が出なくなるほど衝撃と悲しみを感じた。涙が止まらなくなっていた生徒もいた。3 日目には小溝理事長の話に多くの生徒が小溝理事長の強い期待を感じ、これから先に核兵器廃絶の戦いの厳しさ、何より強い決意の必用性を感じた。終わったあとも全員が自分がするのだ、ここからなのだという未来への思いを強めていた。今回私達を大きく成長させてくださった、広島平和委員会の皆様、土岐さん、荊尾さん、小溝理事長、またピースフォーラムに呼んでくださり、市内まで案内してくださった広島女学院の皆様、そして常に見守ってくださった創業者池田先生、本当にありがとうございました。私達は、この貴重な体験を忘れずに、これからの人生に生かしていけるよう、日々努力してまいります。

- 教育の重要性を感じたフィールドワークでした。生命の軽視が生んだホロコーストや広島・長崎の原爆投下のような悲劇を二度と起こさない為にも、私たちには次の世代に伝えていく義務があります。また、単に事実だけではなく、「一人一人が無限の可能性を持っている」という根本の思想を伝えていくべきだと思いました。フィールドワークの中で、学年を超えた最高の仲間と出会い、広島の地で平和への誓いを共にできたことが私の原点になりました。誓いを果たす為に、勉学はじめ様々な所で頑張っていきます。本当にありがとうございました。

